

市民文芸

歌壇 岩崎 聰之介 選

姉と思ひ甘え来し叔母逝きませば別れや足袋の小鉤止め申す
 映し見る皺面此れよ卒寿われ年輪寒気にさらし生くべし
 「切れぬぐなつたがあ」
 八甲田山の映画を思うここ不忘吹雪凄まじ消さるるごとし
 幼き息テレビに映って沼千しのインタビュに答う「どつとバタバタ」と
 レシピア見て柚子ジャムづくり一キ口の香気ただようまあああの出来
 山坂に義弟と姪の手を借りて二親の墓に花を手向くも
 この頃は日ながくなりたるか雪残る庭眺めては春を待つかな
 一歩ずつ登る坂道墓参り病み上がりなり息が切れそう
 木々が揺れ粉雪舞うなか山間へ逢える喜び心も踊る

評一首目、忘れ難い別離を「足袋の小鉤止め申す」に象徴、印象的だ。申すは、止めに結ぶ補助動詞、敬意を込める。
 二首目、皺は年輪、結句のべしに力がこもる。寒気は、困難なども指すか。
 三首目、何かにつけ優しく声掛けして下さった旦那さまなのだろう。初句もよい。

俳壇 山家 弘子 選

あるがまま生きて米寿や初鏡
 満席の子供食堂餅をつく
 注連飾り頼まれ作り六十年
 白鳥の声近づくや空仰ぐ

菊地せつ子
 平間 幸恵
 佐川 鉄輪
 山田 もも

柳壇 四籠 英夫 選

燭台を浄めて灯す大晦日
 初日の出庭木の雪のキラキラと
 外は雪鍋物心満たしけり
 賄うや家庭菜園七日粥
 青空や干物濡らす時雨ふる
 若人の箱根駅伝息白し

評一句目、「あるがまま生きる」というのは吐が座つていないと難しい。自分が自分という苦しい。諸法無我の生き方も。
 二句目、子供食堂が話題に。朝御飯を食べられない子供達に朝食を提供する学校も。子供達の笑顔に餅をつき喜びが伝わってくる。
 三句目、新年に玄関や神前に不浄を払うために飾る注連。老人達に声をかけられ一緒に作って、気がついてら六十年。夢の如し。

評一句目、年末の慌しさに追われ障子が貼れなかった。新年早々貼ることもできず、そのうち貼ろうと思う。そのうちそのうちで日が暮れる。
 二句目、今年の冬は殊更寒さが厳しい。こたつ、ヒーターなど総動員。暖房から離れられない自分を猫に見立て嘆く様が目に浮かぶ。
 三句目、今まであげていたお年玉を、今年は孫からもらった。孫の成長を喜ぶ一方、逆の立場になった我が身に一抹の寂しさが。

Shiroishi Market フレッシュマーケット

～地元農産物の魅力を発信～

地元の農産物や直売所などの魅力をお届けします。
 ～白石市農産物直売所連絡協議会は、地産地消を推進！～



白石の春の味覚「寒ざらしそば」



寒ざらしそばは、毎年大寒の時期から立春の時期までのおよそ2週間、ソバの実を蔵王連峰の冷たい清流に浸すことでアクや渋みが抜け、ほのかな甘みを感じるのど越しの良いそばに仕上がることが特徴です。市内では、4月上旬から材木岩公園内「小原なごみ茶屋」で数量限定で提供します。ぜひご賞味ください！

- 営業日時 11:00～14:30
- 定休日 4～5月 火・水曜日、6～11月 火・水・木曜日
 ※祝日は営業。定休日は変更となる場合あり。☎29-2760

☎農林課 ☎22-1253

▲メニューと金額は市ホームページでお知らせします。



▲受賞した皆さんとベガルタ仙台の佐藤直樹さん(後列左から1番目)

日本語の美しさやリズムに親しむ
「白石市暗唱読本」暗唱コンクール

1月27日、市役所で暗唱コンクール表彰式が行われました。株式会社ベガルタ仙台や仙南信用金庫、蔵王リース株式会社、株式会社白石倉庫の協力のもと開催したもので、各部門で最優秀賞を受賞した保育園や学校にトロフィー、記念パネルなどが授与されました。本市では、「白石市暗唱読本」を活用し、基礎学力の向上に取り組んでいます。



▲稽古体験の様子。会場は参加者の元気な掛け声が響きました

武道の楽しさに触れる
武道体験教室

2月15日、白石中学校武道館（拓心館）で武道体験教室が開催されました。この日行われた空手教室には、市内外から集まった子どもたちと道場生約35人が参加。会場では、講師の指導のもと、突きや受け、組手など空手の稽古体験が行われました。参加者たちは、空手を通じて武道の楽しさを体感していました。



1_小学生の部優勝「白石二小A」チーム 2_中学生の部優勝「豆もやし本当に弱かったやつ」チーム 3_一般の部優勝「シン・深谷ヤング」チーム

心ひとつに綱を引き合う 真冬の激戦！

ひいて ひかれて 第35回市民綱引き大会

1月18日、ホワイトキューブで「第35回市民綱引き大会」を開催しました。これは運動不足になりがちな冬場の体力づくりと、綱引きを通じ、心身の健康・体力の増強、仲間との親睦を図ることを目的に行っているものです。大会には、小学生の部10チーム、中学生の部11チーム、一般の部16チーム、計37チーム

約500人が参加。集まった参加者たちは頂点を目指して、激戦を繰り広げました。観客から熱い声援が飛び交う中、小学生の部は「白石二小A」チーム、中学生の部は「豆もやし本当に弱かったやつ」チーム、一般の部は「シン・深谷ヤング」チームが優勝。会場は冬の寒さを忘れるほど、来場者の熱気に包まれていました。